

酒田西高等学校（全日制） 1年 書道 I

書道における ICT を活用した授業展開



日 時 令和4年9月14日(水) 13:15~14:05

場 所 書道教室

対 象 1年3組5名(書道選択者)

授業者 常勤講師 佐竹加寿真

1 酒田西高等学校の特徴 学級数12クラス、生徒数399名、教員数38名

飽海地区では最も長い歴史を持つ高等学校である。「裕かに」「聡く」「逞しく」を校是とし、「感性豊かで思いやりがある人」、「創造力と知性に富む人」、「逞しく主体的に行動できる人」の育成を目指している。また、情報化やグローバル化が進展する変化の激しい時代を生き抜く力を身につけることが求められる今、地域と連携した「探究ゼミ」「酒西インクル」を核としながら、すべての学習場面における探究活動を推進し、自ら思考し、行動できる力の育成に取り組んでいる。

令和4年度より山形県教育委員会「教員のICT活用力向上事業」として県ICT教育推進拠点校に指定され、ICTを活用した研修や公開授業を実施している。

令和3年度に教室等に大型提示装置、Wi-Fi設置

令和4年度より、生徒・教員1人1台端末(Chromebook)を全員に配付。

2 研究主題

「カメラ機能」を学習活動内に取り入れ、学書活動(実技)の一端で使用する。生徒自身が自ら書いている姿を自分で確認する、という新たなフィードバックの形を取ることができるため、より高い学習効果を期待している。

3 単元名・目標

単元名 行書の学習

- (1) 行書の基本的事項を理解し、「蘭亭序」「争坐位文稿」「風信帖」のそれぞれの作品の特徴について説明することができる。
- (2) 「蘭亭序」「争坐位文稿」「風信帖」を、それぞれの特徴を表現しながら、行書の筆法をもって効果的に臨書することができる。

4 単元計画(全8時間 本時3時間目)

- ① 行書の基本的事項の整理、曲線の練習(1時間)
- ② 「蘭亭序」の学習・臨書本時課【2時間目】(2時間)
- ③ 「争坐位文稿」の学習・臨書(2時間)
- ④ 「風信帖」の学習・臨書(2時間)
- ⑤ 行書の振り返り・まとめ(1時間)

5 主に活用した機器・コンテンツ

・Chromebook ・Google Classroom ・Google Jamboard

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 「蘭亭序」の特徴を分析し言語化することができる。
- ② 「蘭亭序」の特徴をおさえ滑らかかつ違和感の無い線質をもって臨書することができる。

(2) 指導過程

時間※1	●主な学習活動 ○ 発問・指示	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※2
導入 5分 A 1 B 1	●前時の振り返り ○「蘭亭序」にはどんな特徴がありますか。	○スライドを用いて前時で学習した「蘭亭序」の基本事項を復習する。	Chromebook ・Classroom ・Jamboard	B1①ステップ1 体験や活動から疑問を持ち、解決の手順を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する
展開Ⅰ 20分 B 3 C 2	●「蘭亭序」の分析的鑑賞及びその掘り下げ ○AB、2つのペアに分かれ、これから指定する文字についてグループで話し合いながら分析して下さい。	○教科書の図版を鑑賞し、分析した内容を「Jamboard」のスライド内に書き出すよう指示する。その際、人が見ても分かるように具体的に書き出してください。	・Jamboard (付箋機能を利用して分析)	A2①a ステップ2 調査や資料等による基本的な情報の収集方法 C1①b ステップ1 情報を複数の視点から捉えようとする
展開Ⅱ 20分 B 2	●「蘭亭序」「永和」の臨書 ○私が前で見本を書くのを見て下さい。 ○なぞり書きをして下さい。 ○カメラを起動してペア毎順番を決めて撮影してください。 ○自分の動画を見返して筆の運びなどを確認して下さい。	○各字を練習後、二字続けて書かせる。2～3人のペアを作り、お互いに書いている姿を撮影させる。	・カメラ (書いている姿の撮影)	B1①ステップ3 問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する
まとめ 5分 C 2	●作品提出と書道道具の後片付け ○清書を書く前に自分の動画を確認しましょう。	○作品の撮影を忘れないように呼びかける。	カメラ (提出作品の撮影)	C1①b ステップ4 物事を批判的に考察し判断しようとする

※1 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「学びのイノベーション事業 報告書 学習場面に応じたICT活用事例」に基づく表記を示す。

※2 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「【情報活用能力の体系表例 (IE-Schoolにおける指導計画を基にステップ別に整理したもの)】(令和元年度版)全体版」に基づく表記を示す。

7 県教育センター所感

- (1) 事後研修会では、端末の使い方が体育の授業のようであったという意見があった。書道では、有名な先生の動画を見て学ぶという風習があり、上手い人の動きを見て学び全体で共有するという効果的な活用の応用であった。行書は流れが大切なこともあり、生徒が自分自身の動きを動画で観察し、フィードバックする活動はとても有効な活用であった。加えてペアになっている撮影者の生徒も人の書く様子を観察しながら、自身の作品にも反映させることができている点で相乗効果が確認できた。
- (2) Jamboard を用いた分析の際は自身の考えをまとめる個別最適な学びの時間に加え、情報共有などの協働的な学びの時間が確保されていた点で、深い学びに繋がっていくものと考えられる。普段は発言にあまり積極的でない生徒も付箋などには書くことができるという事例も多いようである。協働学習という観点だけでなくメモとして情報を残すといった普段使いの面からも日常的に活用していただきたい。
- (3) ICTを用いた授業はあまり多くないとのことであったが、生徒も先生も活用慣れた印象を受けた。授業準備に係る時間についてもあまり時間をかけず、例えば写真を載せるだけなどの絞った活用にも工夫が感じられた。一方で生徒が機能を覚えるのに時間がかかり、苦勞しているという意見があげられた。機能や操作など新たな知識を覚える際には時間とエネルギーが必要となってくる。しかし、この時間を大切にすることで、その後の学習活動の幅に大きな差が出てくる。今後の生徒の成長に期待し授業準備にあたってほしいと願う。

8 ICT活用の様子

